聖書箇所:創世記3章1~7節
『ふたりの目は開かれ』

【1】 エデンの園

・エデンの園での祝福の日々

―「見よ、それは非常に良かった」(創世記 1:31)

―神の代理人としての役割(創世記 1:26)

・「蛇」を通して受けた誘惑

【2】誘惑

・誘惑の三段階

① 神の命令に疑いを抱かせる：*「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか」*(創世記 3:1)

→エバは神の命令を自分なりの解釈と願望を投影し回答（2:16–17; 3:2–3)。

→誘惑者は、エバの神の命令への疑いを見逃さず、次の段階へ

② 神の命令を全面的に否定：*「あなたがたは決して死にません」*(3:4)

→神の命令を軽視させ、反対のことを断言

③ 神の命令に背くことで得る利益を示す：*「それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです」*(3:5)

―神のように賢くなれると約束

【3】 堕落

・罪の本質：自分の判断を神の命令の上に置くこと

・「賢い（ﾍﾌﾞﾙ語：ｱｰﾙｰﾑ)」と「裸(ｱｰﾙｰﾐｰﾑ)」(創世記 2:25)

―罪の告白ではなく罪の隠蔽を図った二人

・「受難節」を過ごす私たち

受難節：キリストが苦難を受けたことを思い起こして礼拝を守る期節

▷この受難節、これまでの歩みを振り返り、神の前で悔い改める点があるならば、心からの悔い改めをもって主に立ち返りましょう。主はそのような者を深く憐れみ、新たに歩み出す者へと変えてくださいます。